

～海に親しむ～

1 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の内容(5)季節の変化と生活,(6)自然や物を使った遊びに基づいて設定したものである。身近な自然とは、児童が繰り返しかかわることのできる自然であるとともに、四季の変化を実感するのにふさわしい自然である。学習指導要領解説生活編では、身近な自然の例として、川や土手、野原のほか、海や山なども掲げられている。そこで、本校の海洋教育と関連し、身近な自然を「校庭」と校舎裏の「九十九子の森」、校区の「のと海洋ふれあいセンター」の海辺の3つに設定した。1年を通して、里海と里山の両面から自然と繰り返し関わることで、見られる生き物や様子が違うこと、季節による様々な自然の変化などに気付くことができることをねらいとしている。

2 単元目標

年間を通して身近な自然に触れ、近くの公園まで散歩したり、自然に触れ合ったりする活動を通して、身近な自然に関心を持ち、季節の移り変わりを実感できるようにする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
進んで自然と触れ合い、自然の変化や不思議さを感じ取り、諸感覚を用いた遊びや生活を楽しもうとしている。	四季の変化について自分なりに考えたり、身近な自然物を利用した遊びを工夫したりして、それらを表現している。	自然と触れ合い、楽しく遊びながら、季節の変化や遊びの楽しさ、自然の不思議さに気付いている。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	諸感覚を通して里海の自然と触れ合う。 ・のと海洋ふれあいセンターの海辺行き、里海の自然と触れ合う。 ・夏の時期に見られる海藻や貝を採集する。	・事前に、のと海洋ふれあいセンターの職員の方にどのようなねらいをもった学習なのか打ち合わせをしておく。 ・救命胴衣、マリンスーツ着用 ・箱メガネを借用
2	磯遊びで各自が見付けて採集した海藻や貝について交流する。 ・のと海洋ふれあいセンターの自然体験室に移動し、前時の磯遊びで見付けて採った海藻について、職員の東出さんから、名前を聞く。 ・海藻に触れて感じたこと、気がついたことを伝え合う。	・児童の主體的な表現や気付きを大切に するため、海藻の名前や生える時期だけを教えてもらう。

3	夏の海はどんな様子だったか発見カードに書く。 ・体験で見つけたものや気付いたことをカードに書く。 ・カードをもとに、夏の海の様子について話し合う。	・磯遊びのときの写真や評価規準に達している児童の活動の姿を大型テレビに提示する。
4	夏の様子をマップにまとめる。 ・「なつのうみマップ」を作る。 ・マップを見て、自分と友達の表現の違いに気付いたことや新たな発見を伝える。	・「なつのうみマップ」と「あきのうみマップ」を見比べることにより、季節の変化や違いに気付くことができるようにする。
外部連携 / 教材等 ・のと海洋ふれあいセンター ・能登里海教育研究所 浦田 慎先生 【資料】のと海洋ふれあいセンター『 九十九湾 磯の生き物図鑑』 能登里海教育研究所『海の観察ガイド』		

5 活動の様子



磯観察



磯観察



磯観察



磯観察



採集した海藻を確認



6 成果・課題

進んで里海の自然と触れ合い、身近な自然の動植物に親しみをもつことができた。

海の自然との触れ合いから、諸感覚を通しての気づき生まれ、夏の自然について知ることができた。

屋外での体験活動は、天候に左右されることがあり、予定通りの日に行くことが難しいときがあった。

海辺は広く、危険が伴うこともあるため、安全面も十分気をつけなければならない。のと海洋ふれあいセンターの職員の方の協力があったからこそできた活動だった。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・あめふらしは、ぬるぬるでした。つるもはつるつるでした。ながかったです。わかめは、ふにゃふにゃしていました。もずくをたべたことがうれしかったです。かにをさわったことがうれしかったです。
- ・きれいなかいがありました。ふぐは、めがこわかったです。あめふらしは、ぬるぬるでした。
- ・かには、くろかったです。うみうちわは、しろくてぬるぬるでした。ふぐは、かわいかったです。

1年 単元名「きせつとともにだち～いろやかたちをみつけた～」(生活科 里海に関する時間 3時間)

～海に親しむ～

1 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の内容(5)季節の変化と生活、(6)自然や物を使った遊びに基づいて設定したものである。身近な自然とは、児童が繰り返しかかわることのできる自然であるとともに、四季の変化を実感するのにふさわしい自然である。学習指導要領解説生活編では、身近な自然の例として、川や土手、野原のほか、海や山なども掲げられている。そこで、本校の海洋教育と関連し、身近な自然を「校庭」と校舎裏の「九十九っ子の森」、校区の「のと海洋ふれあいセンター」の海辺の3つに設定した。1年を通して、里海と里山の両面から自然と繰り返し関わることで、見られる生き物や様子が違うこと、季節による様々な自然の変化などに気付くことができることをねらいとしている。

2 単元目標

年間を通して身近な自然に触れ、近くの公園まで散歩したり、自然に触れ合ったりする活動を通して、身近な自然に関心をもち、季節の移り変わりを実感できるようにする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
進んで自然と触れ合い、自然の変化や不思議さを感じ取り、諸感覚を用いた遊びや生活を楽しもうとしている。	四季の変化について自分なりに考えたり、身近な自然物を利用した遊びを工夫したりして、それらを表現している。	自然と触れ合い、楽しく遊びながら、季節の変化や遊びの楽しさ、自然の不思議さに気付いている。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	夏と同じ、のと海洋ふれあいセンターの海辺に行き、初秋の里海の自然と触れ合う。 ・夏と比べながら、諸感覚で里海の自然と触れ合う。 ・初秋の時期に見られる海藻を採る。	・事前に、のと海洋ふれあいセンターの職員の方にどのようなねらいをもった学習なのか打ち合わせをしておく。 ・救命胴衣、マリンスーツ着用 ・箱メガネを借用
2	磯遊びで各自が見付けて採集した生き物や海藻について交流する。 ・のと海洋ふれあいセンターの自然体験室に移動し、前時の磯遊びで見付けて採った生き物や海藻について、職員の東出さんから、名前を聞く。 ・自然に触れて感じたこと、気がついたことを伝え合う。	・児童の主眼的な表現や気付きを大切に するため、生き物や海藻の名前や生える時期だけを教えてもらう。 ・夏に採集した海藻は、冷凍保存しておく と、秋に同じものを採集したときに 比べられる。

3	<p>初秋の海辺マップを作り，夏と比べて，海辺の様子が変化していることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の海辺の活動で見つけたものの絵をかく。 ・絵やカードを「秋の始まり海マップ」に貼り，どんなものをかいたか発表する。 ・夏と秋の始まりのマップと見比べて，気付いたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子を思い出すために，活動時の写真を提示する。 ・同じ物の絵をかいた児童から順番に発表して，マップに貼っていく。 ・「なつのうみマップ」と「あきのうみマップ」を見比べることにより，季節の変化や違いに気付くことができるようにする。
<p>外部連携 / 教材等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のと海洋ふれあいセンター ・能登里海教育研究所 浦田 慎先生 <p>【資料】のと海洋ふれあいセンター『 九十九湾 磯の生き物図鑑』</p>		

5 活動の様子



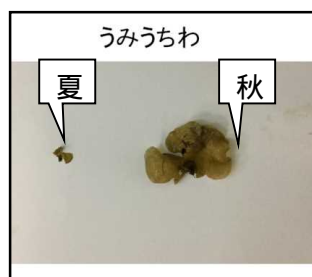
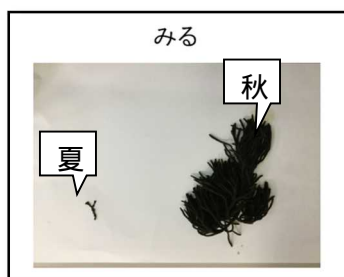
磯観察



磯観察



採集したものの交流



季節ごとに比べると...



海マップ作り

6 成果・課題

夏と初秋の海マップを見比べることで，夏の海の方が生き物が多くいること，海藻は大きくなっていることが分かり，自然物の季節の変化に気付くことができた。

自分の気づきを交流する場を設定することにより，友達との表現の違いや新たな発見に気づき，カード等の視点や表現の仕方が広がってきている。

屋外での体験活動は，天候に左右されることがあり，予定通りの日に行くことが難しいときがあった。自らの学習を自ら高めていく基礎を養うために，指導者の評価だけでなく，目標に沿った振り返りを意識させて，自己評価をさせることが必要である。今後は，毎時間，自分がやろうとしていたことはできたのか，次はどうすればよいかといったことがしっかり振り返られるようにしていきたい。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・なつのうみマップとあきのうみマップをくらべると，あきはいきものがすくない。
- ・あきは，みるとうみうちわが大きくなっていることがわかった。